

【「復興とは」報告フォーマット】

1. あるべき「復興」とは何か、あなたはどのように考えますか。
「エポック」における復興とは、ひとりひとりが何かにつながることをきっかけに、被災者、コミュニティ、社会といった各層において段階的に前向きな意識の転換を図り、被災者、コミュニティ、そして、社会が災害（時代の変化）によって変容した環境に再度、適応（再適応）していくこと。
2. あなたの復興観におけるキーワード（最大 10 個前後）
エポック、復興バネ、「つながり→転換→再適応」、レジリエンス（回復力）、創発、複雑系、軸ずらし、問い直し、社会の脆弱性、足し算の支援、機能の外部化、「安心・安全」
3. あなたがそのような復興観を持つに至った背景について
<p>新潟県中越地震における被災者支援（災害ボランティア）、復興支援（中越復興市民会議、中越防災安全推進機構復興デザインセンター）の活動を通じて上記のような復興観を持つようにいった。</p> <p>被災者とボランティアとのつながり（足湯、復興まちづくり等）により、本来、各自（被災者、ボランティア）が持っていた回復力を取り戻し、その回復力によって、前向きな意識の転換を図り、災害（時代の変化）によって変容した環境に適応していく過程が、ひとりからふたり、ふたりからコミュニティ全体へ、コミュニティから地域へ、地域から社会へと徐々に伝播していく現象を見ている（促進している）中で、この現象は、複雑系における秩序化（自己組織化）のプロセスに酷似しているのではないかと思った。</p> <p>今までの秩序が何らかのインパクトにより混沌を生み出し、その混沌の状況から、様々な個が影響しあい新たな秩序を作り出す過程に酷似している。このことは、復興においては、個を大切にしなければならないことは勿論であるが、個を個として様々なものから切り離して捉えるのではなく、個を多様な個の関係性の中に存在する個として捉えることの重要性を示しているのではないか。</p>
4. 上記を理解する上で参考となる文献
①「地域再生の経済学」 神野直彦 中公新書、②「安全と安心の科学」 村上陽一郎 集英社新書、③「危険社会 新しい近代への道」 ウルリヒ・ベック 法政大学出版局、④「カウフマン 生命と宇宙を語る 複雑系からみた進化の仕組み」 スチュアート・カウフマン（日本経済新聞社）、⑤「災害社会」 川崎一郎 京都大学学術出版会、⑥「減災政策論入門」 永松伸吾 弘文堂、⑦「実践まちづくり読本」 小田切徳美他（地域づくり団体全国協議会）